

**鎌倉における大仏殿の再生計画**  
**—観光地の特徴を利用した避難施設を併設した提案—**

**Revitalization Plan for the Great Buddha Hall in Kamakura**

**- Proposal to incorporate an evacuation facility using the characteristics of a tourist destination -**

佐藤信治<sup>1</sup>, ○尾沢圭太<sup>2</sup>  
 Shinji Sato<sup>1</sup>, \*Ozawa Keita<sup>2</sup>

Japan is a disaster-prone country, tourist destinations are no exception and are always at risk of damage from earthquakes and tsunamis. In other words, the expansion of inbound tourism in Japan not only brings economic benefits, but is also a factor that promotes the potential increase in the number of disaster victims. Therefore, although tourism is a driving economic activity, it is necessary to protect the lives of both the tourists who visit and the residents who live there. In light of the above situation, a disaster evacuation facility that combines tourism and disaster countermeasures is needed in tourist destinations where overtourism occurs.

1. はじめに

日本という国は災害大国であり、観光地も例にもれず地震や津波による被災リスクを常に抱えている。つまり、日本におけるインバウンドの拡大は、経済的メリットをもたらすだけでなく、被災者数の潜在的増加を促す要因であるともいえる。

そのため、観光業とは経済的活動を原動力としてはいるが、そこを訪れる観光客とそこに住まう住民の生命を守る必要がある。以上のような状況を踏まえ、オーバーツーリズムが発生する観光地における、観光と災害対策の両立が成された災害避難施設が必要である。

2. 計画背景

2. 1. 観光の経済的重要性

近年の観光業は急速な成長を続け、非常に大きな経済分野となっている。2023年における旅行消費額は28.1兆円であり、そのうちの訪日外国人旅行者の消費額は5.3兆円と過去最高の値となっている。このことから、観光業は日本経済を大きく支える経済分野であるといえる。

2. 2. 災害による観光業への影響

大方ほとんどの観光産業は観光資源に依存していると考えてよい。ここでの観光資源はその地域に根付いてある物理的なもののみならず、後天的に街に付与された施設や取り組みなどを広くひとまとめにして指す。この観光資源が災害によって痛手を負うことは、観光産業が成立しなくなることに繋がる。この観光産業への影響は「観光資源の価値低下」「担い手の減少」「観光客の減少」の3種類に分けられると考えられる。と

くに、観光産業は訪れる観光客があつてこそ成立する産業であるため、この3種類の影響を最も重視したうえで、被災しても訪れてもらえる観光地づくり、ひいては災害時に観光客を守る観光地の在り方をデザインするのが重要である。

2. 3. 神奈川県鎌倉市

鎌倉市は、豊かな歴史と自然を背景に、年間約2000万人の観光客を迎える日本有数の観光地となっている。

そのような鎌倉市の抱える問題としてオーバーツーリズム問題がある。また、首都圏から近く一日で観光ができるという点で、鎌倉市は日帰り観光地として栄えている反面、この観光形態により十分な経済効果を得られていないと考えられる。その為、従来通りのお手軽観光地としての面を持ちつつも、滞在期間を日単位で長く伸ばす工夫が必要である。

また、鎌倉市は沿岸域にある街であり、地震に伴う津波のリスクも抱えている。津波浸水想定図では、観光客が多く訪れる長谷エリアや材木座エリアが特に浸水の被害が大きい結果となっており、津波発生時は住民のみならず多くの観光客が一斉に避難行動をすると考えられるため、災害時の避難が円滑に行われないのは容易に想像がつく。このことから鎌倉市には津波来襲時の避難場所が多く必要である。

3. 基本方針と計画

本計画では観光地に存在する個々の観光スポットに対して、観光業を両立した災害時の避難施設を設計することを軸とする。観光施設用途としては、主に宿泊

1：日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2：日大理工・院(前)・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

機能を導入し、観光資源と宿泊施設の掛け合わせによる宿泊客増加と新たな観光価値の創出を行う。計画敷地においては、鎌倉市内の観光スポットから条件に沿って一か所選定し、そこに対して計画を行っていく方針とする。日常時は観光施設として、災害時は避難施設として機能する二面性を持った建築を目指す。

### 3. 1. 敷地選定条件

計画背景及び基本方針に基づき、以下のように敷地選定条件を定める。

#### (1) 観光客が密集するエリアにあること

観光客が多く集まる地域であるほど、避難場所の数が必要となるため、観光客の密度が高いエリアの観光スポットを選定する必要がある。

#### (2) 観光客に広く知られていること

災害発生時の避難場所が分からないという観光客が多い。そこで観光スポットを避難場所とすることで、観光スポットの認知度を避難場所の認知度に変換できるので、人気の観光地を選定する必要がある。

#### (3) 十分な広さがあること

街中の観光客が避難時にはピンポイントで集中することになるため、十分な広さが確保されている観光スポットを選定する必要がある。

### 3. 2. 計画敷地

先ほどの選定条件から計画敷地は、高德院鎌倉大仏とする。高德院は鎌倉駅西側の長谷エリアに属しており、観光客が密集するエリアにある観光スポットである。また、鎌倉大仏は非常に有名な観光スポットであり、鎌倉を訪れたことがない人であってもその存在を知っているほどである。この大きな知名度は、災害時の避難場所としてのアイコンク性に変換できるほどであると考えられる。そして他の観光スポットと比較しても広い場所を確保しており、行政の試算では津波避難場所としての収容人数は8,380人となっている。



Figure 1. Planned site map. [5]<sup>1)</sup>に加筆

### 4. 建築計画

本提案は寺院敷地内における計画であるため、現代及び計画地に相応しい伽藍配置を検討する。また、災害発生時に多くの観光客が滞ることなく円滑に避難できる動線計画を構築する。

#### 4. 1. 大仏殿

鎌倉大仏にはかつて大仏殿が建てられていたが、倒壊して以降露座の大仏として在り続けている。失われた大仏殿を再建することで、観光資源である大仏の保護を行いつつ、屋内空間が生まれることによる避難場所の快適性向上・帰宅困難者の避難施設としても機能することが見込める。また、大仏殿を建築的器とすることで、様々な用途機能を設けることも可能となる。

#### 4. 2. 宿泊施設

鎌倉市を訪れる観光客の内、日帰り客が多くの割合を占めていることから、宿泊客を増加させることによる経済効果の余地が残されている。そこで、宿泊施設を設けることで、大仏のすぐ横で寝泊まりできるという付加価値が生まれ、鎌倉市における宿泊観光客増加につなげる。また、災害時にはこの宿泊空間が帰宅困難者となった観光客の過ごす場としても機能し、被災したことによる鎌倉市へのマイナスイメージを払拭しつつ、観光体験へと結びつける。

#### 4. 3. 展示室

現状の高德院鎌倉大仏には、歴史的説明などに割かれている場所が少ないので、鎌倉大仏についての歴史的説明や研究成果、大仏殿の史跡などを展示する場所も設け、鎌倉大仏について学べる教育の場を整備する。

### 5. 参考文献

- [1] 観光庁：「旅行・観光消費動向調査 2023 年年間値」, <https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001740851.pdf>, (参照 2024-5-20).
- [2] 日本政府観光局：「訪日外客統計」, <https://www.jnto.go.jp/statistics/data/visitors-statistics/>, (参照 2024-5-20)
- [3] 鎌倉市：「鎌倉市の歴史」, <https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kids/jh/kjh211.html#L2>, (参照 2024-6-18)
- [4] 鎌倉市：「かまくらわが街マップ」, <https://www2.wagmap.jp/kamakura-hazard/PositionSelect?mid=204>, (参照 2024-6-19)
- [5] 「Google Map」, <https://www.google.com/maps/>, (参照 2024-8-24)